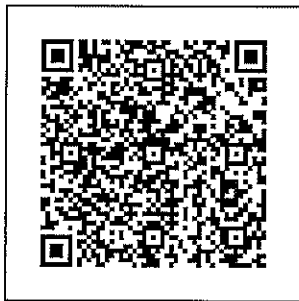


どんなお話なの？

1992年秋『胃の中が空っぽのクマ射殺』という記事を見た尼崎の中学生たち。
 『何故山にクマの食べるものがないの？』
 『何故絶滅しかかっているクマを大人たちは救ってやれないの？』
 と様々な疑問を抱き彼らは考え行動し、生徒がそして学校が変わっていきました。
 熊が命をかけて教えてくれた事・・・それは山の現実・山村に暮らす人達の窮状・
 山の生態系の異変・開発等による地球規模の環境破壊等だった。
 大人たちへ訴えるため、行動した生徒達は別人のように猛勉強を始める・・・

一中学生たちと教師が共に国をも動かす運動へと展開していった日本熊森協会設立のお話です。

後半は子供達の未来のため日本の森林・林業再生について、森林組合や滋賀県の担当者、それに建築関係者などと問題点やどうすれば解決できるのか？を討論したいと思います。



申し込み用QRコード

会場の地図QRコード

こなんの森木の家ねって？

わたしたちは、野洲川流域の森の木を利活用して、森林の循環や環境負担の軽減など、地域の環境を元気にしようと活動しているメンバーです。

また、里山保全活動の一環で、薪割くらぶも作り、県内の薪ストーブユーザーを集め、近くの山から薪を作ったりしています。

興味ある方は是非お問い合わせください!!

